

2019年度の実績及び 2020年度の計画について



あいちロボット産業クラスター推進協議会



2019年度実績

1

1. 開発者と利用者との協働体制の構築 (1) あいちロボット産業クラスター推進協議会 【総会】

2019年度総会開催結果

- 開催日 6月11日
- 参加者 169名
- 内容
 - ① 会長挨拶 (大村知事)
 - ② 講演「革新的サイバニックシステム“HAL®”による様々な活用法」
CYBERDYNE株式会社 営業本部長 安永 好宏 氏
 - ③ 講演「日本発 空飛ぶクルマ‘SkyDrive’開発への挑戦」
株式会社SkyDrive 技術渉外責任者 山本 賢一 氏
 - ④ 交流会

※ 協議会会員数：518社・団体
(今年度新規加入28社・団体；2020年2月末時点)



1. 開発者と利用者との協働体制の構築

(1) あいちロボット産業クラスター推進協議会【WG】

医療・介護等分野ロボット実用化ワーキンググループ

座長：国立長寿医療研究センター 理事長 荒井 秀典 氏



- **第12回会合 9月30日／国立長寿医療研究センター〈参加者32名〉**
 - ・ 講演「サービスロボットを活用するための新規格（JIS Y1001）の紹介」
産業技術総合研究所 ロボットイノベーション研究センター 中坊 嘉宏 氏
 - ・ 講演「排泄支援ロボット キューレット・自動ラップ」
アロン化成（株） ライフサポート事業部企画グループ 坂口 拓也 氏
 - ・ 講演「排泄支援ロボット ロボスネイルOVER」 リョーエイ（株） 技術部 平野 卓哉 氏
- **第13回会合 12月2日／藤田医科大学病院〈参加者30名〉**
 - ・ 講演「介護・リハビリ支援ロボットの社会実装に向けた課題と取組」
藤田医科大学 医学部 リハビリテーション医学1講座 教授 大高 洋平 氏
 - ・ これまでの取組事例「ロボティクススマートホーム（藤田医科大学）」、「ウェルウォーク（トヨタ自動車）」
 - ・ 講演「RSH・AATセンターの取組と支援事例紹介」
藤田医科大学保健衛生学部 リハビリテーション学科 講師 清野 溪 氏
- **第14回会合 1月23日／国立長寿医療研究センター〈参加者22名〉**
 - ・ 講演「ロボット介護機器の効果検証と標準的プロトコルの策定 - Hugを中心として」
国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター ロボット臨床評価室長 加藤 健治 氏
 - ・ 講演「移乗サポートロボット「Hug」の紹介」 株式会社FUJI 技術開発部第2課 課長 中根 伸幸 氏
 - ・ 講演「自立型生活支援ロボットの安全ガイドの紹介」
一般財団法人日本品質保証機構 主幹 榎引 豪氏 他

1. 開発者と利用者との協働体制の構築

(1) あいちロボット産業クラスター推進協議会【WG】

製造・物流等分野ロボット導入実証ワーキンググループ

座長：中部大学工学部ロボット理工学科 教授 梅崎 太造 氏



- **第13回会合 9月3日／中部大学〈参加者28名〉**
 - ・ 講演「マクスエンジニアリングのロボットシステムへの取組み（けん玉ロボットを中心として）」
株式会社マクスエンジニアリング 技術部 開発室 担当課長 西郷 知泰 氏
 - ・ 講演「ディープラーニングを用いた産業に応用できる画像認識技術」
中部大学 工学部 情報工学科 准教授 山下隆義 氏
- **第14回会合 11月13日／中部国際空港 セントレアホール〈参加者24名〉**
 - ・ 講演「産業用ロボットの実証について（安川電機及びIVIの例）」
株式会社安川電機 技術開発本部 技術企画部 国際規格担当部長 富田 浩治氏
 - ・ 講演「もっともっと優しい社会の実現を目指して-サービスロボットによる新たなチャレンジ」
株式会社シンテックホズミ 営業戦略企画室 室長 柴田 泰臣 氏
 - ・ 講演「作業負荷軽減を目的とした電動パワーアシストスーツ（J-PAS）」
株式会社ジェイテクト 新規事業推進部 第1推進室 室長 尾崎 光晴氏
- **第15回会合 2月18日／テクノプラザ（岐阜県）〈参加者13名〉**
 - ・ 講演「中小製造業のためのロボット・IoTを導入する前に行う生産改善ノウハウ」
株式会社V Rテクノセンター 取締役企画営業本部長 横山 孝弘氏
 - ・ 講演「協働ロボット活用セミナー ～協働ロボットがモノづくり現場を変える！～」
I D E Cファクトリーソリューションズ株式会社
取締役 ロボットシステム事業本部 部長 鈴木 正敏氏

1. 開発者と利用者との協働体制の構築

(1) あいちロボット産業クラスター推進協議会【WG】

無人飛行ロボット活用ワーキンググループ

座長：大同大学 工学部機械システム工学科 講師 橋口 宏衛 氏



- **第12回会合 9月6日／ウインクあいち <参加者57名>**
 - ・ 講演「飛行情報共有システムの概要」
国土交通省 航空安全部安全企画課 専門官 伊藤 康浩 氏
 - ・ 講演「ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクトについて」
NEDOロボット・AI部 プロジェクトマネージャー 宮本 和彦 氏
 - ・ 講演「ドローン運航管理システムの運用コンセプト」
JAXA航空技術部門 次世代イノベーションハブ ハブマネージャ 原田 賢哉 氏 他
- **第13回会合 10月28日／南知多町役場篠島サービスセンター <参加者8名>**
 - ※無人飛行ロボット社会実装推進事業における離島への配送実証実験の見学会として開催
 - ・ 説明「今回の実証実験、及び今後の実証実験計画について」
名古屋鉄道株式会社 経営戦略部 課長 岩田 知倫 氏 他
- **第14回会合 3月5日／ウインクあいち <参加者25名>**
 - ・ 講演「無人飛行ロボット社会実装推進事業における実証実験の成果と課題」
名古屋鉄道株式会社 経営戦略部 課長 岩田 知倫 氏
 - ・ 講演「自律的ダイナミック・リルーティング技術の紹介 ～開発から三河湾での飛行実証まで～」
株式会社SUBARU航空宇宙カンパニー自律システム設計部 自律システム設計課係長 笹本 貴宏 氏 他

1. 開発者と利用者との協働体制の構築

(2) あいちサービスロボット実用化支援センター

国立長寿医療研究センターと連携し、モノづくり企業やユーザーを支援。

- **設置場所** 国立長寿医療研究センター
- **開設日** 2015年8月17日
- **支援内容**
 - ・ 県内企業のロボット展示（13点）
 - ・ 介護施設や企業のマッチング支援
 - ・ 企業のロボット開発に関する相談支援
 - ・ サービスロボットの先進事例紹介 等
- **相談件数** 100件（2020年2月末時点）
- **見学者数** 469名（2020年2月末時点）



2. 研究開発や実証の促進

(1) 知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期

産学行政連携による「知の拠点あいち重点研究プロジェクト」を実施。

- 研究テーマ数 26件
うちロボット分野研究テーマ 2件
- 研究期間 2019年度～2021年度

■ 知の拠点あいちとは…

大学等の研究成果をイノベーションにつなげることを目的とする次世代モノづくり技術の創造・発信の拠点



5G/AIを活用したロボットプラットフォームと
ロボットサービスの研究開発

参加機関

OnClouds(株)、新明工業(株)、(有)来栖川電算

概要

多くのロボットと人を繋げるプラットフォームの開発



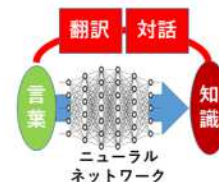
分野適応技術による自然言語
処理技術のビジネス展開

参加機関

豊橋技術科学大学、(株)ウオンツ、新東工業(株)、
日本マイカワト(株)、シノエテクノロジー(株)、武蔵精密工業(株)

概要

企業ごとの専門用語に対応する機械翻訳技術と、状況に対応する対話ロボットの開発



知識抽出AIシステム

分野適合型機械翻訳システム

寄り添い型対話システム

2. 研究開発や実証の促進

(2) 新あいち創造研究開発補助金

今後の成長が見込まれる分野（ロボットをはじめ、次世代自動車や航空宇宙等）において、企業等が行う研究開発・実証実験を支援。

- 補助率 中小企業は2/3以内、大企業及び市町村は1/2以内
- 補助限度額 中小企業及び市町村は1億円以内、大企業は2億円以内
- 採択結果 83件（交付額 約7億6千万円）
- ロボット分野採択案件 4件

企業名	所在地	事業の名称
(株)エアロ	弥富市	AIおよびIoT技術を活用した画像処理検査ロボットシステム研究開発
(株)鬼頭精器製作所	豊田市	多彩な機能と安心装備の介護施設用自動巡回見守りロボットに関する研究開発
サイポート(株)	名古屋市	ドローンを活用した鳥獣外対策プラットフォームの研究開発
ビー・エル・オートテック(株)	名古屋市	協働ロボット普及のためのロボットハンド用触覚センサの研究開発

2. 研究開発や実証の促進

(3) サービスロボット実用化支援補助金

本県ロボット産業の技術力を世界へ発信し、ロボットビジネスの拡大を図るため、中部国際空港島等において社会実装を目指すサービスロボットの研究開発・実証実験を支援。

- 補助率 中小企業は2/3以内、大企業は1/2以内
- 補助限度額 2,000万円以内
- 採択結果 7件（交付額 約7,600万円）

企業名	所在地	事業の名称
(株)インディ・アソシエイツ	名古屋市中区	リモートワーク型サービスロボットの実用化
(株)ケーイーアール	豊川市	自律二輪型案内・警備ロボットの実用化
(株)シンテックホズミ	みよし市	荷物運搬支援ロボットの実用化
新明工業(株)	豊田市	自律運行カート回収配置ロボットの実用化
(株)東亜製作所	豊田市	インフォメーションロボットの実用化
パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)	名古屋市長区	業務用荷物搬送ロボット、ポーターロボット等の実用化
豊和工業(株)	清須市	屋外用清掃ロボットの実用化

2. 研究開発や実証の促進

(4) ドローン等の実証実験場の提供

県関連施設をロボットの実証フィールドとして提供

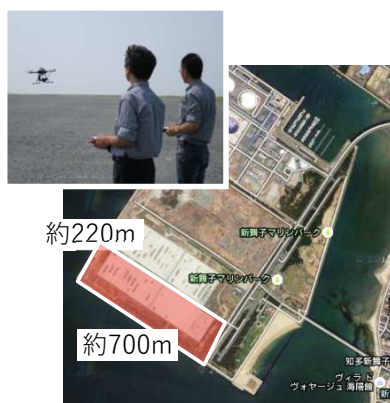
- ① 愛・地球博記念公園 [長久手市] …6社・38回実施
 - ② 名古屋港南5区 [知多市] …41社・380回実施
 - ③ 矢作川浄化センター [西尾市] …17社・53回実施
- [※ 2020年2月末時点、②③は無人飛行ロボットのみ]

延べ
64社・471回
の実証実験

愛・地球博記念公園



名古屋港南5区



矢作川浄化センター



2. 研究開発や実証の促進 (5) 近未来技術等社会実装事業 (ア) 介護・リハビリ支援ロボット

介護・リハビリロボットの相談窓口を設置し、県内企業による社会実装を見据えた開発への支援体制を構築する。

設置場所 藤田医科大学

相談窓口

①相談窓口の設置・運営



コーディネーター

技術的相談から実証フィールドの提供・紹介、開発から社会実装までをワンストップで対応

相談



助言・指導

開発企業・介護施設

相談内容例

- ・自社製品技術を用いた医療介護分野への適用について
- ・開発ロボットの実証フィールドの提供について
- ・自社施設への介護ロボットの導入について など

研究支援推進部門

連携

連携

②臨床試験の支援、治験データ等の取得支援



学内の実証フィールドで臨床試験を行い、データ収集や解析支援を行う

リハビリ部門

③ロボット活用計画の立案支援



介護施設等でのロボットの最適な活用条件を抽出し、活用計画書の作成支援を行う

2. 研究開発や実証の促進 (5) 近未来技術等社会実装事業 (イ) 無人飛行ロボット (ドローン) の社会実装推進

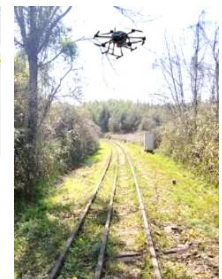
社会実装に向けた様々な課題抽出を目的に、3地域で荷物輸送の実証実験を実施

事業実施体制

- 名古屋鉄道(株)、中日本航空(株)で構成する名鉄グループドローン共同事業体で実施
- 協力事業者
【機体管理】(株)プロドローン
【通信監理】KDDI(株)



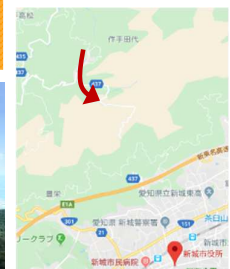
廃線跡を利用した
日用雑貨の配送
(豊田市) 11/15 (金)



離島への
医療物資の輸送
(南知多町)
10/28(月)



山間部過疎地域への
A E Dの輸送
(新城市) 11/27(月)



2. 研究開発や実証の促進 (5) 近未来技術等社会実装事業 (ウ) サービスロボットの社会実装推進

中部国際空港等の施設へのロボット導入に向けた実証実験を実施
“ショーケース”として、一般の人も体験できるよう工夫し、ロボットの活用状況を披露

- 場所 : 中部国際空港、Aichi Sky Expo等
- 案件 : 県内外で実用化されているまたは実用化に近いサービスロボット (22機)
- 重点的に披露する機会 :
Aichi Sky Expo開場時期(2019年8月)
G20外相会合開催時期(2019年11月)



3. 人材育成 (1) 安全技術開発の支援

人との接触機会が多くなるサービスロボットの安全な開発を促進するため、
「リスクアセスメント研修会」を開催。

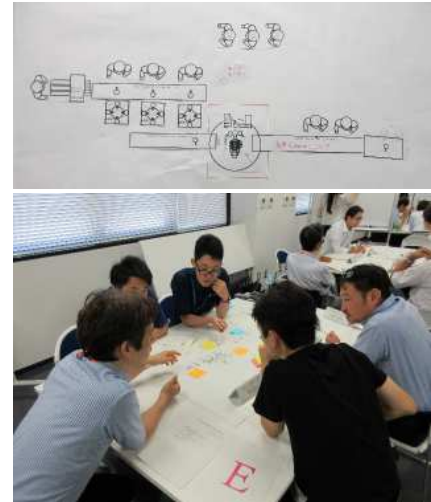
- 実施日 3日間 (8月1日、8月5日、10月3日)
- 参加者数 18名
- <1日目>「有用性評価のための実証実験
～“生活支援ロボット及びロボットシステムの安全性確保に関するガイドライン”と“エンドポイント”～」
▶名古屋大学大学院 工学研究科 機械システム工学専攻教授 山田 陽滋 氏
「リスクアセスメントの概要と安全設計手順」
▶独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所部長 池田 博康 氏 他
- <2日目>「サービスロボットの運用における安全性確保」
▶一般財団法人日本品質保証機構認証制度開発普及室主幹 高村 博紀氏
「ISO13482における安全性評価について」
▶一般財団法人日本自動車研究所 ロボットプロジェクト推進室主任研究員 浅野 陽一 氏 他
- <3日目>「ロボット実証実験中の事故に備える保険制度」の概要
▶三井住友海上火災保険株式会社第一支社支社長代理 久保田 泰隆 氏
「機能安全の基礎」
▶公益財団法人科学技術交流財団 科学技術コーディネータ 丹羽 邦幸 氏

3. 人材育成

(2) 産業用ロボット導入支援研修の実施

中小製造業における産業用ロボットの基本的な知識の習得を目的とした研修を開催

- **開催日** 2019年4月～2020年2月（全9日間）
- **実施機関** 名古屋工業大学
- **内容**
 - ・ 産業用ロボットの基本的な知識の習得を目的とした講座
 - ・ 産業用ロボットの導入・活用事例の紹介
 - ・ 産業用ロボット導入例題のグループ演習・検討結果発表
 - ・ ロボット導入提案依頼書の作成演習
 - ・ ロボットメーカー・SIerのショールーム視察
 - ・ ロボットメーカー・SIerとのマッチング相談会
- **講師等** IDECファクトリーソリューションズ、近藤製作所
デンソーウェーブ、バイナス
- **協力機関** 川崎重工業、THKインテックス、デンソーウェーブ
バイナス、FUJI、三菱電機名古屋製作所等
- **参加者** 中小製造業等 20社



導入例題のグループ演習の様子

4. ロボットユーザーの創出・情報発信

(1) 介護ロボット出張デモ

協議会会員が開発した介護ロボットの改良や製品の普及を促進。

- **対象機器**
あいちサービスロボット実用化支援センターの展示ロボット
- **出張デモ施設**
愛知県及び近隣地域の医療・介護施設
- **実施件数**
11件
- **成果**
6施設等において介護ロボットを試用



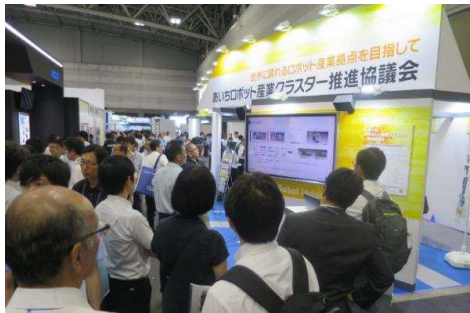
4. ロボットユーザーの創出・情報発信 (2) 展示会への出展

あいちロボット産業クラスター推進協議会の活動や会員企業のロボット等をPR。

出展概要

出展展示会	時期	場所	出展内容	展示会来場者
名古屋ロボテックス (ロボットの展示会)	9月18日～ 9月20日	ポートメッセなごや	協議会紹介、 5社のロボット	36,897名
ロボットシンポジウム2020名古屋 (ロボットの展示会)	2月5日～ 2月6日	吹上ホール	協議会紹介、 6社のロボット等	10,201名※

※同時開催のTech Biz来場者含む



名古屋ロボテックス



ロボットシンポジウム2020名古屋

4. ロボットユーザーの創出・情報発信 (3) 産業用ロボット導入支援研修の実施 ▶ 再掲：3 (2)

5. ロボット国際大会の推進 (1) ロボカップアジアパシフィック2020あいち・ ワールドロボットサミット2020開催に向けた気運醸成

開催委員会 の開催等

ロボカップアジアパシフィック2020あいち開催に向け必要な事項を審議するため、開催委員会・各部会を開催するとともに、大会開催計画を作成。

● ロボカップアジアパシフィック2020あいち開催委員会概要

- ▶ 開催委員会（開催日：9/18、1/20（書面表決）、3/24）
 - ・会長：愛知県知事
 - ・副会長：（特非）ロボカップ日本委員会会長、愛知県副知事始め6名
 - ・他委員13名、監事2名
- ▶ 運営部会（開催日：5/7、9/2、2/17）
 - ・部会長：愛知県経済産業局長
 - ・副部会長：（特非）ロボカップ日本委員会会長、（一社）ロボカップジュニア・ジャパン 代表理事
 - ・他委員21名
- ▶ 競技専門部会（開催日：6/26、11/20）
 - ・部会長：（特非）ロボカップ日本委員会会長
 - ・副部会長：愛知県ロボット国際大会推進室長始め3名
 - ・他委員19名

● 大会開催計画の策定

- ・開催計画案等の策定



開催委員会（9/18）の様子

5. ロボット国際大会の推進

(1) ロボカップアジアパシフィック2020あいち・ ワールドロボットサミット2020開催に向けた気運醸成

一年前イベントなどの開催

2020年の開催に向けて、県内の気運醸成を図った。

一年前イベント

- **時期** 10月12日（土）、13日（日）
※12日（土）は台風の影響で中止
- **場所** イオンモール常滑
- **内容** ロボットのデモンストレーションや体験、ワークショップなど
- **来場者数** 2,345名



地域イベント

- **時期** 8月25日（日）・26日（月）
- **場所** イオンモール大高
- **内容** ロボカップ競技デモンストレーション、ロボットワークショップ、ロボットステージ等
- **来場者数** 1,540名



※他に、「2019国際ロボット展」など県外の展示会へ出展を実施

5. ロボット国際大会の推進

(1) ロボカップアジアパシフィック2020あいち・ ワールドロボットサミット2020開催に向けた気運醸成

施設見学ツアーの開催

県内において実際にロボットが導入・実証されている現場や関連施設の見学ツアーを開催

- **時期** 8月9日～31日の間の6日間
- **内容** 県内において実際にロボットが導入・実証されている現場や関連施設の見学ツアー
- **見学コース（4分野6コース）**
 - 【医療・介護ロボット分野】
藤田医科大学病院、社会福祉法人サン・ビジョン ジョイフル名駅
 - 【モノづくりロボット分野①】
安川電機中部ロボットセンタ、(株)ジェイテクト
 - 【モノづくりロボット分野②】
トライエンジニアリング(株)
 - 【ドローン活用分野①】
三信建材工業(株)、神野インドア
 - 【ドローン活用分野②】
愛知県立大学次世代ロボット研究所
 - 【工場や空港で活躍するロボット分野】
(株)デンソーウェーブ、中部国際空港(サービスロボットフォーカス会場)
- **参加者数** 204名



5. ロボット国際大会の推進

(1) ロボカップアジアパシフィック2020あいち・
ワールドロボットサミット2020開催に向けた気運醸成県内チーム
強化支援

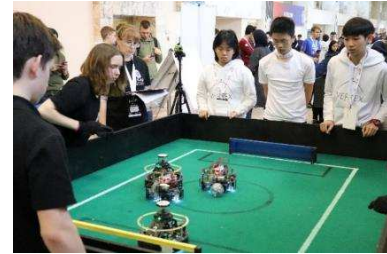
ワールドロボットサミット又はロボカップアジアパシフィック2020あいちの競技会での入賞を目指し、県内チームの活動を支援

● 支援チーム メジャー4チーム、ジュニア2チーム

区分	活動拠点	チーム名
メジャー	愛知県立大学	RoboDragons
	愛知県立大学	Camellia Dragons
	愛知工業大学	AIT-Rescue
	豊田工業高等専門学校	KIKS
ジュニア	大治町立大治中学校	マジックtime
	たかはま夢・未来塾	Team Takahama K-INGmini

● 支援内容

- ・専門家やロボカップ経験者等からの技術指導
- ・ロボカップ2019シドニー世界大会、ロボカップジャパンオープン2019ながおか、ロボカップアジアパシフィック大会2019モスクワ等のロボカップ関連大会への参加費などの負担



5. ロボット国際大会の推進

(1) ロボカップアジアパシフィック2020あいち・
ワールドロボットサミット2020開催に向けた気運醸成

レガシー検討

ロボカップアジアパシフィック2020あいち及びワールドロボットサミットのレガシーとなる競技会について有識者会議で検討し、基本計画案を作成。

● 有識者会議 (開催日：第1回 10月28日、第2回 1月31日)

氏名	所属/役職	備考
小平 紀生	三菱電機(株) FAシステム事業本部 主席技監	座長
高丸 尚教	中部大学 工学部ロボット理工学科 教授	
杉浦 藤虎	豊田工業高専 電気・電子システム工学科 教授	
山口 直人	愛知総合工科高等学校 校長	
加藤 一史	豊橋工業高等学校 校長	
鬼頭 佑治	協和工業(株) 代表取締役社長	
渡辺 互	(株)バイナス 代表取締役社長	
成瀬 雅輝	(株)豊電子工業 常務執行役員	

● 検討内容

- ・レガシーとなる競技会の実施可能性
- ・競技会の基本計画案



検討会議(1/31)の様子

5. ロボット国際大会の推進 (2) ロボカップジャパンオープンの開催

ロボカップアジアパシフィック2020あいちのプレ大会と位置付け、大会を通じてロボット国際大会の開催気運を盛り上げるため、開催準備を推進。

ロボカップジャパンオープン2020あいち

- 開催日 3月20日(金)～22日(日)
- 会場 Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)
- 内容

【競技会】

- ・ロボカップサッカー
- ・ロボカップレスキュー
- ・ロボカップ@(アット)ホーム
- ・ロボカップインダストリアル
- ・フライングロボットチャレンジ

【サイドイベント】

- ・ロボカップジュニアエキシビション
- ・ロボットワークショップ
- ・ロボットデモンストレーション

3月に予定していた本大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等を踏まえ、開催中止を決定



開発者と利用者の協働体制の構築

▶ ロボット産業クラスター推進事業

4,701千円

(2019年度：4,734千円)

1. あいちロボット産業クラスター推進協議会の運営

委員会、総会、ワーキンググループの開催

2. あいちサービスロボット実用化支援センターの運営

国立長寿医療研究センターと連携し、モノづくり企業やユーザーを支援

研究開発や実証支援（1）

▶ 知の拠点あいち重点研究プロジェクト 1,148,504千円 (2019年度：1,151,717千円)

大学等の研究シーズを活用して、新技術の開発や新産業の創出を促進するため、産学行政連携による研究開発プロジェクトを実施。

▶ 新あいち創造研究開発補助金 910,000千円 (2019年度：910,000千円)

成長が期待される分野において、企業等が行う研究開発や実証実験を支援。

▶ サービスロボット実用化支援 100,000千円 (2019年度：100,000千円)

2020年までに中部国際空港島等において社会実装を目指す、サービスロボットの研究開発や実証実験を支援。

※新あいち創造研究開発補助金の内数

- ・ 補助限度額：20,000千円
- ・ 補助率：中小企業2/3以内
大企業1/2以内

研究開発や実証支援（2）

▶ 近未来技術の社会実装の促進 56,328千円 (2019年度：56,676千円)

1. 介護・リハビリ支援ロボット 12,222千円（12,222千円）

要介護者の自立、介護負担の軽減やリハビリ患者の生活改善を実現する支援ロボットの開発、実用化を支援。

2. 無人飛行ロボット（ドローン） 10,100千円（10,138千円）

ドローンを活用し、山間部等における荷物配送等の実証実験を通して、社会実証モデルを策定。

3. サービスロボット 34,006千円（34,316千円）

中部国際空港等の施設での導入に向けた実証実験を実施。ショーケースとして、一般の人にも体験いただき、ロボットの活用状況を披露。

人材育成

▶ 安全技術開発の支援 252千円

(2019年度：352千円)

リスクアセスメント研修会の開催

▶ 産業用ロボット導入支援研修の実施（再掲）

ロボットユーザーの創出・情報発信

▶ 展示会の出展支援 5,534千円

(2019年度：6,327千円)

あいちロボット産業クラスター推進協議会の活動や会員企業のロボット等をPR

▶ 産業用ロボット導入支援研修の実施 15,318千円

(2019年度：12,648千円)

中小企業等の製造現場への産業用ロボット等の導入を支援・推進するため、相談窓口を設置するとともに研修プログラムを実施。

ロボカップアジアパシフィック2020あいち・ ワールドロボットサミット2020の開催

370,000千円
(2019年度：68,030千円)

▶ ワールドロボットサミット及びロボカップアジアパシフィック2020あいちの開催

ワールドロボットサミット2020	ロボカップアジアパシフィック2020あいち
ロボットの社会での活用を促進するために、社会課題を解決するロボットの競技会と展示会	アジア太平洋地域の学生などが参加し、ロボット技術の研究・教育を深化させるための競技会
●主催：経済産業省、 新エネルギー・産業技術総合開発機構	●主催：ロボカップアジアパシフィック委員会、 ロボカップアジアパシフィック2020あいち 開催委員会(会長：愛知県知事)
●日程：2020年10月8日(木)～11日(日)	●日程：2020年10月8日(木)～12日(月)
●会場：Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場) (12日(月)のみ名古屋市内)	

▶ 県内チーム強化事業

両大会での入賞を目指し、県内チームの活動を支援

▶ レガシー検討

両大会のレガシーとなるロボット競技会の実施計画を検討